

保育内容指導法「人間関係」の授業についての省察 ～幼児期における「協同性」の理解～

江 端 佳 代

(2019年3月12日受理)

Reflection on class “Teaching Method of Childcare Contents (Personal Relations)” —Understanding of “Cooperation” in early childhood—

Kayo EBATA

要旨：本稿は保育内容指導法「人間関係」の授業の在り方について検証した。学生が「協同性」について理解するために、どのように授業を構成すると効果的であるか、授業を振り返りながら明らかにしたものである。事例を通じた授業だけではなく、学生自身が経験したことを取り入れながら「協同性」について学んだことは、主体的な学びとなり、理解できたのか、アンケートやグループ学習の様子から考察する。

Key words：幼稚園教育要領 領域「人間関係」 協同性 授業評価

1.はじめに

幼稚園教育要領や保育所保育指針、及び認定こども園教育・保育要領の、人との関わりに関する領域「人間関係」が目指すことは「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」⁽¹⁾とあり、人として生きていくための重要な意味を含んでいる。保育内容指導法「人間関係」の授業では、この領域における基本的な考え方を理解し、具体的な保育の在り方について学んでいく。本学では、1回生後期に、保育内容指導法「人間関係」が開講されている。1回生9月に本学の附属幼稚園で1週間の実習を行ってはいるが、学生達の保育実践の経験は少ない。そのため、本授業では将来的に保育者になった時をイメージし、保育の事例研究や授業内容に沿った課題を学生に課し、グループで意見を交わしながら授業を進めている。また、筆者は幼稚園教諭として現場での職歴を有しており、筆者の保育体験などを紹介しながら、具体的な指導方法や環境の在り方、またけんかやトラブル

など保育現場での問題解決について、発達を理解した上で、どのように関わっていけばよいか、DVDや写真などを活用しながら、学生がイメージしやすいように、学習を進めている。

その中の「協同性」の学びの授業について省察し、今後の効果的な授業の在り方を考えていきたい。

2.「協同性」の捉えについて

平成29年3月31日に改訂された幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいは、下記の通りである。

1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。⁽²⁾

また、協同して遊ぶことに関しての内容は内容項目(8)に記されている。

内容(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。⁽³⁾

そして、幼児が協同して遊ぶようになるための、教師の配慮事項として【内容の取り扱い】には次のように記されている。

内容の取扱い

(3) 幼児が互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。⁽⁴⁾

このように、領域「人間関係」において、協同的な遊びを支える保育を展開していくことは、幼児期の教育にとって大変重要である。また、今回の改訂では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。『幼稚園教育要領解説』によると「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』は、第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質、能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。」⁽⁵⁾と記されている。その10の姿のひとつとして「協同性」がある。

【協同性】

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。⁽⁶⁾

さらに、平成29年7月に告示された「小学校学習指導要領解説生活編」でも「協同性」の重要性が取り上げられている。「協同性」は幼児期の教育に留まらず、その後の教育にも引き継がれていく重要な学びであることが言えよう。

しかし、平成20年の幼稚園教育要領改訂においては、初めて「協同性」という内容が示された時には、保育の現場では「協同性とは何か。」「保育者の適切な役割はどうあるべきか。」「共通の課題は先に示すべきか。」などの論議がなされた。文部科学省においても、改訂された幼稚園教育要領の内容の理解を深める目的で、「幼稚園教育推進事業」を実施し、都道府県ごとにテーマに沿って協議させ、内容を深めるといった研究が行われた。筆者が勤務していた福井市公立幼稚園においても、県から委嘱され、研究を重ね、それ以来、筆者も「幼児期における協同性と保育者の援助の在り方」について、実践を通して、研究を進めてきたところである。

このように、領域「人間関係」において、「協同性」を押さえておくことは重要である。だが、最近の学生は、SNSやブログなどで一方的に発信するコミュニケーションを好み、他者と話し合ったり、意見を交換し合ったり、議論したりすることは避けているような印象を受ける。そのため、領域「人間関係」が目指す人と関わる力を養うことは、学生にとっても大きな課題である。さらに、個人差はもちろんあるが、学生自身が入学前に友達やクラスの仲間と一緒に、共通の課題に向かって、試行錯誤しながら諦めずにやりとげ、達成感や満足感を味わっているのだろうかということを感じている。DVDや事例研究などで「協同性」とは何かは理解できても、保育者がどのような援助を行っていけばよいのかは、実感が伴わずわかりにくいのではないかと思われる。「協同性」について川田ら(2009)は、「子どもと同様に、保育者の主体性がないところに協同性は拓かれない。」⁽⁷⁾と述べている。また「いま我々が問題にすべき「協同性」は、外形的に見える者(大人の視点からの協同性)ではなく、子どもと保育者が相互に活動を創り上げていく過程そのもの(保育に参加する者の視点からの協同性)である。従って、仮に当番活動や卒園製作のような予め定められた活動であっても、その過程がどのように進行するかによって、それは「協同的学び」にもなりうる。一方で、「みんなと一緒に作った」としても、それが形だけのものであるとき協同的とは言

わない。遊びや活動の外側が問題ではなく、それが発生し、時に頓挫し、また発展する過程での子どもと保育者の内面的な動きが重要である。」⁽⁷⁾と述べている。さらに、小林（2009）は、「協同的経験」を支える保育者の役割として、「幼児が自ら主体的に遊びを進めていけるようになるためには、幼児のイメージから遊びが生まれ、幼児の思いやイメージを大切にしながら、その実現に向けて保育者がそれを支えたり、一緒に工夫したりして遊びを進めていく経験をする 것도大切である」と考える。そのような活動における保育者の援助の在り方についても検討していくことが重要である。」⁽⁸⁾とまとめている。

そこで、「協同性」を育むための保育者の援助の視点について、具体的に理解できるような授業の工夫として、今年度、学生達が実際に取り組んだ活動（注釈：毎年の短大祭で地域の子どもたちのために学生たちがクラスごとに催している「じんあいこどものくに」の活動）を振り返りながら、「協同性」の理解の学びへと繋げた。その授業内容について、省察する。

3. 授業について

(1) 「じんあいこどものくに」の取り組みについて

本学では、10月に行われる「仁短祭」において、幼児教育学科の学生全員が、クラス毎に、地域の子どもたち、主に幼児を対象に遊びの場を提供している。平成30年度各クラスが考えたものは次の通りである。

	1 回 生	2 回 生
A	ボールプールとシャボン玉	お祭り
B	ごろごろバトンパス	サバイバルゲーム
C	水族館迷路&宝さがし	恐竜ランド

図1 平成30年度「じんあいこどものくに」の活動

限られた時間の中で、クラスで相談しながら準備をし、当日も役割を分担しながら、開催している。本学のこの「じんあいこどものくに」は平成21年度から行われており、地域においても親しまれる行事となっている。今回はCクラス、「水族館迷路&宝探し」を振り返った授業を検証する。

(2) 授業の実施

授業日時：平成30年 10月31日 1校時

場 所：本学C422

科 目：保育内容指導法「人間関係」第6回

対 象：1回生Cクラス35名（欠席者1名）

授業内容：集団で活動する楽しさとは -他者への意識と協同での生活や活動-

(3) 授業の概略

① 【文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレール館2018】、【監修 無藤隆 編者代表 岩立京子2018 萌文書林p145~154『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』】を参考に、パワーポイントのスライドを作成し、「協同性」について説明する。

② 仁短祭「じんあいこどものくに」の準備や当日の様子の写真、及び「じんあいこどものくに」の感想から、Cクラスとしての取り組みをクラスで検証する。

Cクラス、「じんあいこどものくに」についての感想から（自由記述から抜粋）

【反省点】

- ・前日の準備に意外に時間がかかってしまった。もっと見通しをもって取り組むべきであった。
- ・なぜ、段ボールを青く塗っていたか、始めは分からなかった。どういう水族館にするのか、みんなのイメージが共有されていなかった。
- ・もう少し前から準備など分担し、やらなければいけないことをやっておけばよかった。
- ・前日に青いペンキ塗りをした。結構段ボールも多く、あせった。片付けも大変で、凍えるような寒さだった。そのような苦労があって、当日の子どもたちの笑顔が胸にしみた。
- ・いろいろなことを予想して、準備をすればよかった。
- ・「じんあいこどものくに」の実行委員として、大変だった。具体的なイメージを伝えられず、何をすればよいのか分からなかった。

しかし、苦戦しながらも、みんなでアイデアを出し合い、何とか教室全体を水族館っぽく仕上げる事ができた。

【よかった点】

- 「じんあいこどものくに」では、クラス全員の協力があったり成り立っていたなと思った。とても達成感があった。
- みんなと力を合わせて作成したものはとても感動した。一人でするより、みんなと力を合わせて作ることで、達成感を感じることができた。
- 素晴らしいのができたのは、クラスのリーダーのおかげだと思った。
- 子どもたちはもちろん、お父さん、お母さんもすごいと褒めてくれ、この水族館を作ったことを誇りに思う。
- 「じんあいこどものくに」は貴重な体験で、最高の思い出になった。来年も楽しみだ。
- 「じんあいこどものくに」でCクラスの仲が深まった。中心になって計画してくれた人たちに感謝している。

③ 「協同性」を育む教師の援助として何が重要か、「協同性」で育つことは何か、DVD『映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども 箱んでハイタワー』の視聴や「じんあいこどものくに」の体験を通してグループ毎に模造紙に書き込む。



図2-1 グループでの話し合いのまとめ



図2-2 グループでの話し合いのまとめ

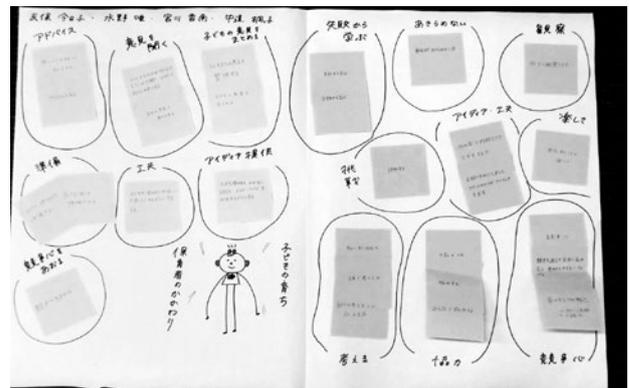


図2-3 グループでの話し合いのまとめ

【グループの話し合いから】

- 子どもたちが試行錯誤する経験が必要だ。すぐに結果がでるのではなく、いろいろ考えながら進めていくことが大切である。
- 共通の課題をもつためには、イメージの共有が必要だ。整理されないときは、教師のアドバイスや図で説明する。
- 話し合いの場を保障する必要がある。時間を十分にとらないと、子どもたちは考えられない。教師が引っ張っていくようになってしまう。
- 見通しをもって、計画的に行うように、カレンダーを使ったり計画の予定図を作成したりすることは効果的である。そのような、教師のさりげない援助が、子どもの「協同性」の学びを支えるのではないだろうか。

【考察】

どのグループも「試行錯誤」「工夫すること」「話し合いの時間の保障」「考えること」「失敗しても諦めないこと」「自己発揮」「達成感や満足感」と

というような見出しでまとめられていた。「協同性」を支えるための教師の役割が、実感として理解できたのではないかと感じた。

(4) 授業の評価

① 自己評価

- スライドで、『幼稚園教育要領』における、ねらいや内容、内容の取扱い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「協同性」の捉えについて押さえ、本日学ぶことの課題を明らかにした。
- スライドの資料は書き込み式にし、重要な事を押さえていった。また、自分で『幼稚園教育要領』を見ながら書かせた。
- 学生自身が体験した「じんあいこどものくに」を振り返ったからか、授業に集中して取り組んでいた。
- 共通の体験を通しての話し合いだったので、いろいろな意見が出て、盛り上がった。
- 時間配分が悪く、後半グループ発表までできなかった。そのため、次の時間に発表を行ったが、2週間空いてしまったクラスもあった。

② 授業アンケートから

本学では、FD委員会による学生の間におよび学期末の授業評価アンケートを実施している。

【本学の授業評価アンケートの目的】

開講中の授業科目における内容・方法（授業速度・難易度・板書）・授業環境等に関し、学生がどのような感想・評価をもっているかを調査し、授業科目の内容・教育方法等をより豊かにするためにを行うことを目的としている。

その中で、調査項目に関して教員が独自に別途調査したい項目があれば、追加できるようになっている。今回は、この授業について、アンケートをとった。

特別質問事項 19

「協同性の育ちについて、「じんあいこどものくに」のクラスでの取り組みを振り返りながら学んだが、協同的な遊びへの教師の配慮など

理解できたか。

特別質問事項 20

『映像で見る主体的な遊びで育つ子ども 箱んでハイタワー』のDVDを視聴してグループで話し合ったり、実際の事例を取り入れたりしながら、実感を伴うような授業となるよう工夫したが、領域「人間関係」で重要な事など理解できたか。

【授業アンケート調査の概要】

- 1) 調査日時 平成31年1月9日（水）
(授業第13週目)
- 2) 実施者 授業担当者
- 3) 調査対象 保育内容指導法「人間関係」受講者（1回生Cクラス 35名）
(*Aクラス 36名
Bクラス 36名)
- 4) 調査項目 FD委員会作成の授業評価アンケート、授業者独自の質問事項
- 5) 回答方法 マークシート方式による回答
- 6) 学生への説明 個人情報への記入は必要なく、アンケート記入者が特定されないことや成績には関係がないことを口頭で説明した。授業をよく振り返りながら、回答するように伝えた。

【授業アンケートの結果】

各回答に4段階の得点を付与し、【強くそう思う(4)】【やや思う(3)】【あまり思わない(2)】【全く思わない(1)】で、平均値と標準偏差を算出した。

質問19			
	Aクラス	Bクラス	Cクラス
有効データ数	32	30	33
平均	3.44	3.80	3.76
標準偏差	0.50	0.48	0.43

表2-1 質問19アンケート結果

質問20			
	Aクラス	Bクラス	Cクラス
有効データ数	32	30	33
平均	3.50	3.80	3.73
標準偏差	0.56	0.40	0.45

表2-2 質問20アンケート結果

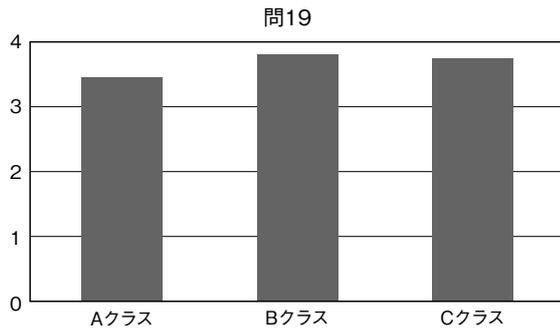


図3-1 問19クラス別平均値

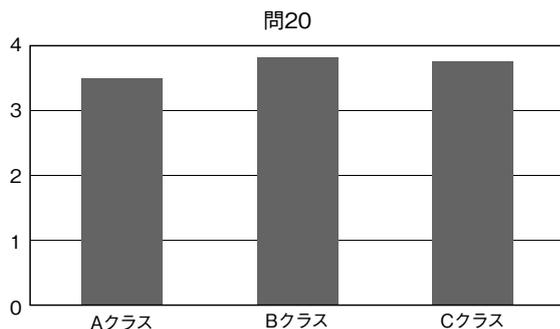


図3-2 問20クラス別平均値

- Cクラスの平均値を見ると、問19、問20ともに、3.7以上でこの授業が学生にとって、分かりやすい授業であったと思われる。
- 学生の自由記述においても、「クラスの全員で取り組んだ活動なので、「協同性」について、理解しやすかった。」「何も振り返りがなかったならば、楽しかったで終わってしまったが、振り返りを行ったので、2回生の取り組みに生かすことができる。」という意見が書かれており、概ねどの学生も理解できたのではないと思われる。
- 図3-1,2のAクラスとCクラスを比較すると、若干ではあるが、Aクラスの平均値が低い。「じんあいこどものくに」に向けての活動が、Aクラスはボールプールとシャボン玉で、前日の準備がさほど必要ではなかったこと、どちらかというともAクラスは安全面への配慮について話題が広がってしまったことが一因ではないと思われる。それぞれのクラスの取り組みから授業を進めていく場合、学生達が取り組んでいる過程を授業者が十分把握していないと学びに繋がっていかないと感じた。

4.まとめと課題

白石（1994）は、発達心理学の立場から、「協同するかかわりは子どもたちの自由な関係に任せておいただけでは育むことができない。」¹⁰⁾と指摘している。そして、「大きな目標のために一人一人が何をすべきか子どもたちのなかで考えられるような問題提起をし、子どもの主体性を尊重しながら集団を方向づけていくのが、保育者の腕のみせどころ。」と述べている。このように、「協同性」を育てていくためには、保育者の関わりが大きな課題になっていく。今回の授業では、「じんあいこどものくに」の取り組みから、友達と共通の目的をもって協同的に遊ぶようになるための保育の視点を明らかにすることを、授業の目的とした。学生のグループ内での発言や、振り返りシートから読み取っていくと、「協同性」を育む保育のポイントが、保育経験の少ない学生においても、イメージしやすかったのではないだろうか。今回の授業から、2月に行われる保育実習で保育者の関わりを実際に見ながら、確実な学びへと繋げていってほしい。

註

- 1) 文部科学省告示第62号 『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館、2017年 13頁
厚生労働省告示第117号 『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館、2017年 37頁
内閣府、文部科学省、厚生労働省告示第1号 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館、2017年
- 2) 文部科学省告示第62号 『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館、2017年13頁
- 3) 同上13頁
- 4) 同上14頁
- 5) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 52頁
- 6) 前掲 2) 4頁
- 7) 川田学、津田千明 香川大学教育実践総合研究『幼児期における協同性とその援助の視点を探る』68頁
- 8) 小林美紗子 奈良教育大学研究紀要『4歳児の「協同的経験」を支える保育者の役割について』99頁
- 9) 大豆生田啓友・中坪史典編著『映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども あそんでほくらは人間になる』エイデル研究所 2016年
- 10) 白石正久『発達の扉（上）子どもの発達の道すじ』かもがわ出版 1994年